（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０１９年度（平成３１年度）学校評価自己評価表

駅家南中学校区	校番２７	福山市立駅家南中学校

最終更新日	2019年（平成３１年）４月１０日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状
○評価指標は定量化されており，子供たちが学ぶ意識を高める取組を継続してほしい。 ○子ども一人一人に目を向けた質の高い教育を保護者地域と展開できるよう，引き続き三校連携を強化してほしい。 ○地域住民への発信は，より効果的な方法を含めて検討が必要である。	○互いの意見を聞く，受け止めることはできているが，自分の考えをわかりやすく伝えることに課題が見える。 ○地域活動へ参加したり住んでいる地域が好きな子どもが多い。 ○言われたことをやろうとするが，少し難しいことへ挑戦したり，自分で課題をみつけて解決しようとする意欲が低い。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）	コミュニケーション力　　協調性・思いやり
めざす子ども像（義務教育修了時の姿）	駅家に愛着と誇りを持ち　主体的に行動する児童生徒
中学校区として統一した取組等	話す・書く（アウトプット）場面を意図的に設定した授業を行う 保護者，地域と連携したふるさと学習を積み上げる 駅家南中学校区スタンダードで生活習慣・家庭学習を定着させる

Ⅲ　自　校

ミッション

未来・地域から預かった生徒が，故郷に愛着と誇りを持ち，自立して社会に貢献できるよう，励ましながら鍛える。

学校教育目標

自立して　社会に貢献できる　生徒の育成

現　状

＜生徒＞
・さまざまな活動で，生徒主体の取組を仕組んでいるが，生徒自身の自己肯定感が低い傾向にある。
・理由を明らかにして，自分の考えを相手に分かりやすく伝えることができている生徒の割合は低い。

＜授業＞
・生徒に課題意識を持たせる工夫や，習得させた知識や技能を活用して，設定した課題を解決するための思考させる場面の工夫など，生徒の主体的な学びの生まれる授業に向けて試行錯誤している。

育成する力（21世紀型“スキル&倫理観”）：問題解決力　　コミュニケーション力　　協調性　　リーダーシップ

めざす子ども像

	問題解決	コミュニケーション	協調性	リーダーシップ
１年	多様な視点から物事を考えることができる	自分の考えや思いを理由を明確にして伝えることができる	相手の立場が尊重できる	与えられた自らの役割を果たすことができる
２年	自ら課題を発見し課題解決のための自分の考えを持つことができる	事実と意見を区別して相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながら相手の立場を考えた行動ができる	自己の役割を自覚して責任を果たすことができる
３年	望ましい解決策を導き出すことができる	自分の考えや思いを論理的に相手に分かりやすく伝えることができる	互いに関わりながらその場に応じた行動ができる	率先して集団や社会の中で役割を果たすことができる

研究	教科等	道徳
	主題・内容等	自ら考え学ぶ授業の創造 ～生徒の学びを促す“しかけ”の工夫を通して～
めざす授業の姿		先生は単元のねらいを明確に持ち，知識・技能をしっかり教えている 生徒は課題意識をもってじっくり考え，はっきり表現している

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立駅家南中学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月1日）				最終評価（2月末）				
							□指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	□指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
３	21世紀型スキル及び倫理観の育成に向け，確かな学力・健やかな体力を身に付けさせる。	★	継続	全国学力・学習状況調査の平均正答率について県平均以上とする。	・「学びの地図」を作成する。 ・話す，書く活動を授業に意識的に取り入れる。	・年間の単元や題材から，「学びの地図」を５つ以上作成する。 ・標準学力調査（東京書籍）を５教科で実施し，全国平均以上にする。									
			継続	体力・運動能力調査の各項目について県平均以上とする。	・体育や部活動の中で，弱点に特化したトレーニング及び補強運動を継続して行う。	・全国平均を上回る項目を40/48以上にする。									
１	幅広い知識や豊かな心を育むために，読書習慣を身に付けさせる。		新規	図書室を活用し，読書に取り組もうとする生徒の意識を醸成する。	・図書室の利用を促進するため，図書室の整備を行う。 ・呼びかけ等を行わせるなど，読書習慣をつけるための，図書委員会の活動を仕組む。	・図書室の利用者数割合を年度当初比+10％以上にする。									
１	子どもに向き合う時間を確保するために，業務の改善を図る。		新規	業務内容の見直しや精選，各業務の適切な分担を行う。	・週２日の部活動休養日や定時退校日を確実に設定する。 ・スクールサポートスタッフ等へ計画的に業務依頼を行う。	・時間外勤務の平均時間を前年度比90％以下にする。									

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。